

Friday

7/13

多久の偉人に思いを馳せる

もろ た けんじゅん

第28回 諸田賢順を偲ぶ会



▲横尾市長による挨拶



▲琴や尺八の愛好家による箏曲の演奏

毎年、諸田賢順の命日に行われている“諸田賢順を偲ぶ会（主催：多久市文化連盟）”が専称寺（多久町）で行われ、市内外から琴や尺八の愛好家ら約80人が参加しました。

筑紫流箏曲は、平安時代末期から北九州地方に流布していた箏曲を賢順が大成したもので、国の無形文化財にも指定されています。

会では、琴・尺八合奏曲の「六段の調」や「飛鳥の夢」などが披露され、参加者は「献曲を聴くと先人の功績が偲ばれます。諸田先生に思いを馳せるこの日を今後も大事にしていきたいです」と、演奏に耳を澄ませていました。

Wednesday

8/1

Friday

8/3

豊かな自然で仲間とふれあう！

夏休み教育キャンプ in 船山2018

市内に住む4年生から6年生の児童を対象に、2泊3日の教育キャンプ（主催：多久市教育委員会）を船山キャンプ場（西多久町）で行いました。

夏休みを活用して行ったキャンプには、30人が参加。野外炊飯やテント設営、さまざまなレクリエーションを通して、団体生活のルールやお互いに協力することの大切さを学んでいました。

参加した児童は「夜の星空がすごくきれいで、友達とまた来年も参加したい」と話しました。



▲みんなで協力してテントを設営

▲果物も流れた“そうめん流し”

まちのわだい



▲高齢者疑似体験を受ける児童



▲認知症を寸劇で分かりやすく伝える地域包括支援センターの菊池保健師



YouTube で動画が見れます！



“あたたかい心”で見守る

認知症キッズサポーター養成講座

Thursday

8/2

Wednesday

8/22

市内に住む4年生から6年生の児童を対象に、認知症キッズサポーター養成講座（主催：多久市地域包括支援センター、社会福祉協議会）を、児童センター「あじさい」で開催しました。

この取り組みは、認知症を正しく理解し“あたたかい心”で見守ることができる児童を養成することを目的に開催したもので、この日は児童18人、ボランティアで参加の多久高校生3人が参加しました。

講座は、講話や寸劇、実際に高齢者疑似体験ができる教材を活用し、階段の上り下り、新聞を読むなど、認知症だけでなく高齢者になると経験する、生活の不自由さをわかりやすく工夫した内容でした。

参加した児童は「高齢者の大変さが分かったので、今後はこの経験を生かしていきたい」と話しました。